



電気自動車を活用した 持続可能なまちづくりに関する連携協定 締結式

令和元年7月22日

SDGs 未来都市・熊本市

日産自動車株式会社

熊本日産自動車株式会社

日産プリンス熊本販売株式会社



(1) 熊本地震発生

大規模な断水や停電を経験し、

ライフラインの重要性を痛感

(2) 熊本市震災復興計画

防災・減災のまちづくりの主な取組として、

災害に強い自立・分散型のエネルギーシステムの構築を計画



清掃工場を核にした防災型の地域エネルギー事業を展開中

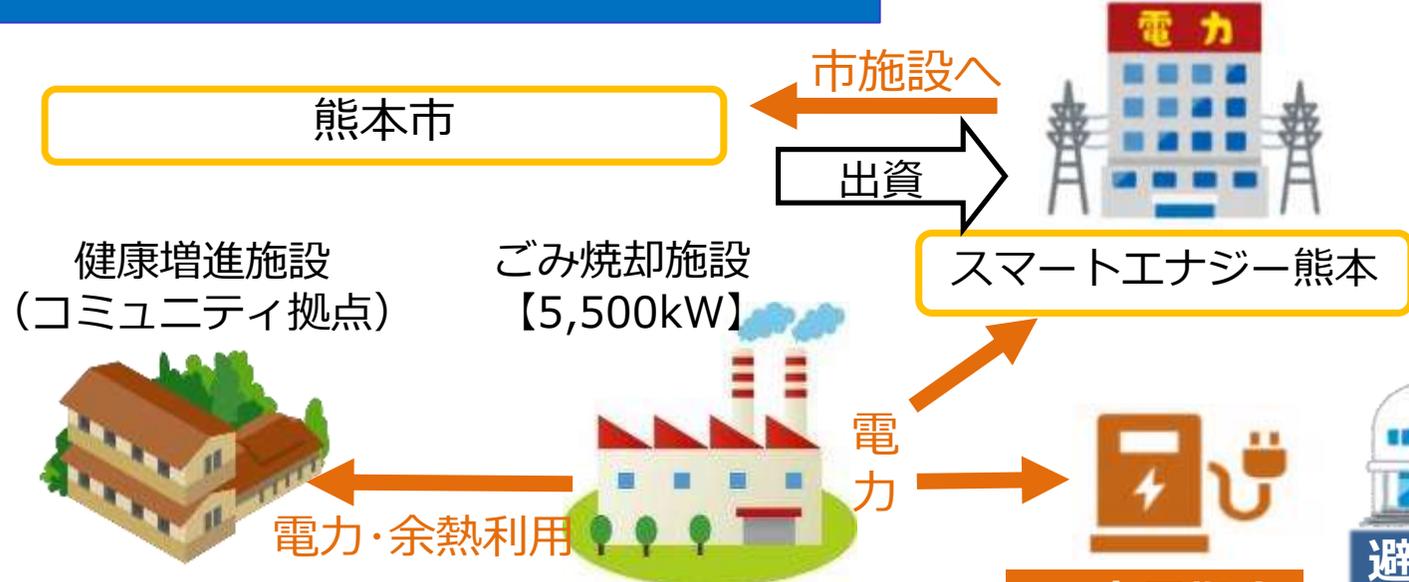
(3) SDGs未来都市・SDGs自治体モデル事業

SDGsの先導的な取組を行う自治体として、令和元年7月、国が本市を選定

「熊本地震の経験と教訓をいかした地域（防災）力の向上事業」

ライフライン強靱化プロジェクト

① 地域エネルギーの地産地消の発展



自立分散型のエネルギーシステムにより年間1.6億円の電力料金が削減
⇒家庭や中小企業への省エネ支援

① ZEH ② EV ③ 中小企業

浴場・運動施設による健康増進
交流促進による地域活性化
⇒災害時は避難所となる

② EVの電力供給に係る官民連携事業

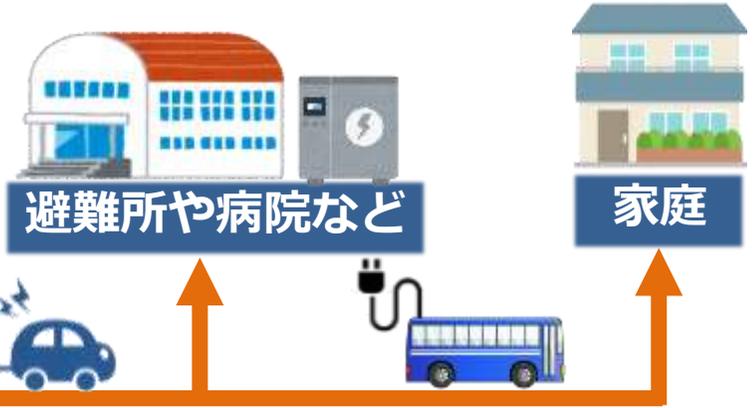
日産自動車(株)
県内日産販売会社2社

災害時に販売店及び事業者が所有するEVを避難所で給電車として活用

EV充電拠点



新産業の振興・CO₂削減



蓄電池として避難場所等で活用

③ EVバス導入促進事業

(株)イズミ車体製作所

熊本大学開発のEVバスに改造し、
熊本市が熊本城周遊バスとして運行
運行開始：令和元年12月予定

電気自動車を活用した 持続可能なまちづくりに関する連携協定

- ① 電気自動車の普及促進による市民の
環境意識の向上
- ② 災害時における電気自動車の活用による市民の安全確保（電気の供給）
- ③ 電気自動車の普及を通じた地域課題
の解決

①電気自動車の普及促進による 市民の環境意識の向上



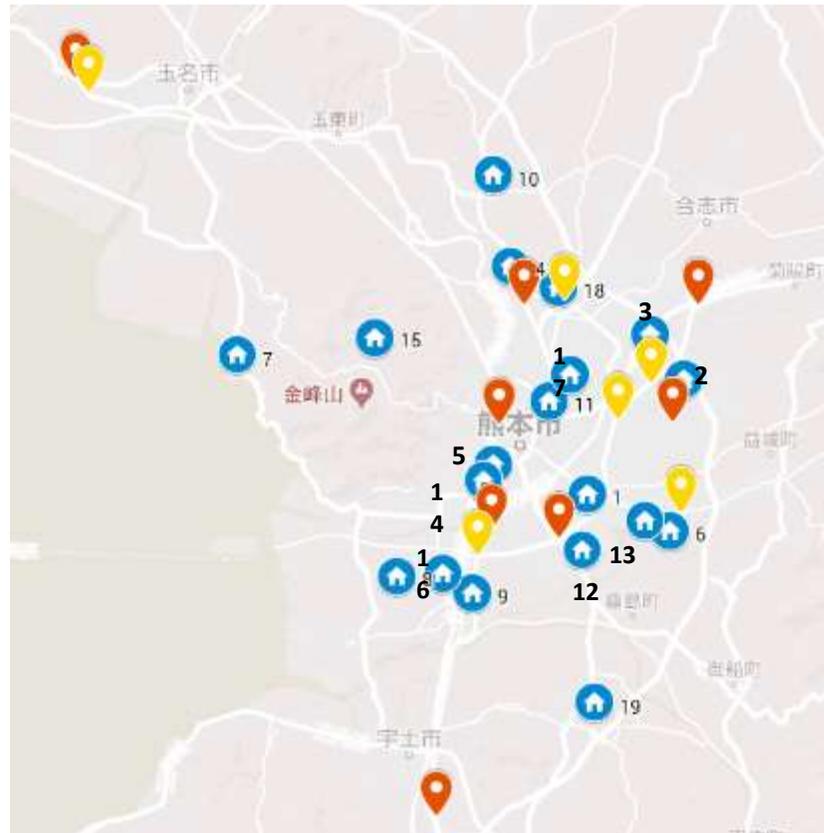
市のイベントでのEVの活用や広報の実施



②災害時における電気自動車の活用による市民の安全確保（電気の供給）



- 地震や風水害による停電時
- 市内避難所19か所(現時点の想定)に日産販売店の試乗車EVを派遣
- EVからは避難所の最低電力半日以上を賄う（19時間連続）
- 広域停電の場合は、西部環境工場の電力を使用できる充電拠点でEVを充電
- 市内の事業者が所有するEV提供を受ける制度の創設を検討中



③電気自動車の普及を通じた 地域課題の解決



- 地域力や防災力を確保するための地域のつながり確保
- 自動車由来の有害物質の削減による大気汚染の解消
- 今後、地域課題の解決に向けた検討

